

令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 飛幡 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和5年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

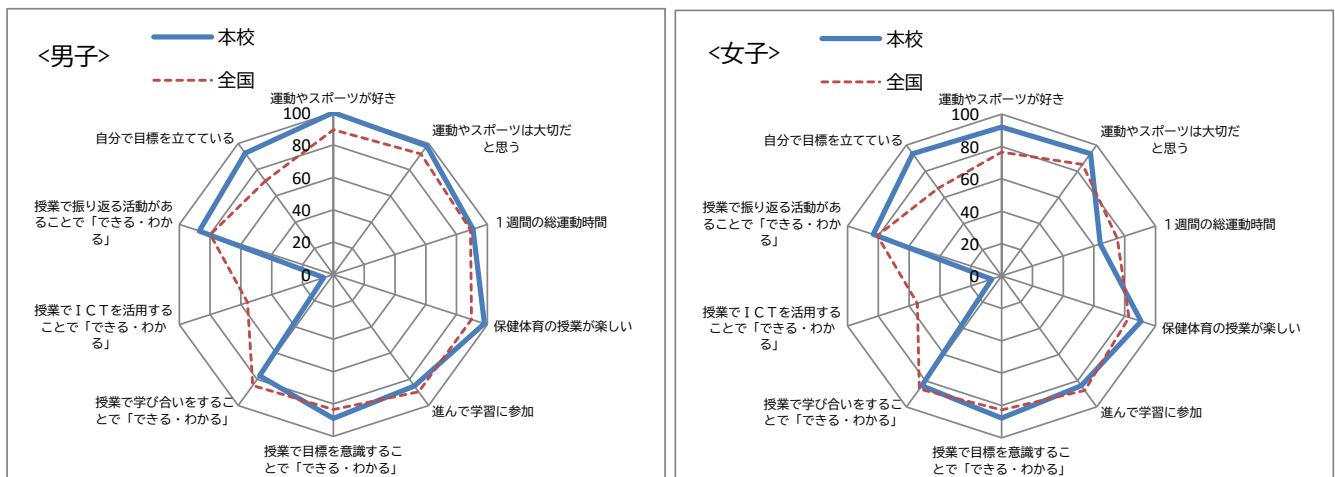
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	28.98	25.71	44.04	51.19	409.92	77.76	8.01	196.97	20.32	41.18
本市	29.72	26.24	46.29	51.95	413.28	80.12	7.86	201.52	20.51	43.46
本校全国平均以上の種目	○	○	○				○	○		○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	23.12	21.53	46.26	45.65	307.02	50.46	8.95	166.21	12.36	47.08
本市	23.64	22.08	47.52	46.35	320.97	51.41	8.86	170.70	12.13	48.65
本校全国平均以上の種目	○	○	○	○				○		○

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

- 保健体育の授業を楽しんでいる生徒が多く、また運動やスポーツが好きであり、その大切さを理解している生徒が多い。
- 保健体育の授業以外で運動を行う生徒が特に女子において少なく、進んで保健体育の学習に参加している生徒が少ない。
- 保健体育の授業において、「めあて」や「振り返り」を通して「できる」や「わかる」ことが多いものの、ICTの活用や学び合いを通して「わかる」や「できる」を実感している生徒が少ない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 保健体育の学習において、よりわかりやすい動画・教材を利用した「ICTを活用した取り組み」を行っていく。また、ICTを活用する際に、ポイントや狙いを明確にすることで、生徒の理解を深めていく。
- 保健体育の学習において「学び合い」の取り組みから、生徒が「できる」「わかる」に繋がっていく取り組みを行っていく。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

- 保健体育の授業だけでなく、学校全体を通して生涯スポーツに向けた「運動の必要性や有用性」ならびに「運動習慣を身につけること」「手軽に行える運動やスポーツ」など、関係する掲示物を掲示することや発信していくことで、自ら運動に親しもうとする意識を高めていく。